

平成19年5月24日

『岡山県指定史跡 吉井水門調査報告書』の刊行に係わる記者発表のレジュメ

日本最古の現存する水門と判明

岡山大学 大学院 環境学研究科 教授 馬場俊介

1. 刊行の目的

岡山大学では、大学の地域貢献活動の一環として、吉井水門の価値判断を客観的に評価する資料を作成、刊行するとともに、岡山市内(吉井川左岸)にある吉井水門(1679年)は、国指定史跡にふさわしい岡山県の誇るべき第一級の資産であるとの確信のもと、国指定史跡に向けて活動を開始します。

なお、現地での保存状態の確認に当たっては、津田永忠顕彰会、吉井水門保存会の協力を得ました。

2. 報告書の内容

①吉井水門は、当時の姿をとどめた運河閘門(こうもん)としては、全国で最も古い遺構である。従ってこれまで、国内最古と喧伝されてきた見沼通船堀(国史跡)は、実際は、3番目に古い運河閘門となる。

②吉井水門は、池田家文庫等の資料から、1679年の創建当初から閘門式の水門として使われていた。また、当時の石垣も水門中央部に残り、それ以外の部分(江戸後期～明治期の改修)もすべて石材で行われ、実用施設が修復をくり返しつつ現在に至った様子をよく物語っている。

③吉井水門は、岡山県が生んだ最大のスーパースターである津田永忠の設計・施工である。津田永忠は、実際に事業の采配をふるった施設が、国宝1、国特別史跡1、国特別名勝1、国史跡・重文4、県史跡・重文3、市史跡1、国登録1の多きにのぼり、わが国で、一人の人物がこれほどの評価を受けた例は稀有である。

本年2月1日に行われた岡山県備前県民局主催の歴史シンポジウムで提案された津田永忠の偉業を中心に世界産業遺産へ登録申請をという声に呼応して、3月22日、学長の内諾を得て、岡山大学内に研究会を立ち上げ、暫定名称ではあるが、「近世岡山の土木遺産群 — 花崗岩加工技術の農業への展開」を、世界遺産候補として、学術的検討を進めている。この中には、閑谷学校、後樂園等15件の既往の文化財、ならびに、5件の未指定物件が含まれるが、その核の一つは吉井水門である。なお、研究会のメンバーは14名、うち学外者が7名、事務局が馬場、岡山県文化財保護審議会委員長の柴田一・前就実大学長に顧問をお願いしている。